

1.要旨 abstract

人間の日常に欠かせない医療を将来に向けてより良いものにするために、現在の医療課題をネット上で調べて課題解決に向け金銭面・精神面・AI面の仮説を立てた。今後も医療課題については考えていくべきだと思う。

2.研究背景/目的・意義

現在の医療の課題として「医師不足」「医師の過労働」「診療報酬」「社会補償費圧迫」「医療の質確保」などが挙げられる。これらの課題を踏まえ、より良い医療にするために原因を追求した上で、様々な視点から考え「未来につながる医療」という題目にしました。①給料や残業代の賃金を上げる。②医療従事者のメンタルケアを行う③AIの利用で医師の負担を減らすという仮定を立てて解決方法を考えた。

一 主な問題点とその原因一

- ・日本にある病院の約4割が赤字経営
→人件費のアンバランス化や、病床稼働率の減少、コロナ禍の影響などがある。
- ・従事者の人材不足
→高齢化社会にあり需要に対して供給が追いつかないことや、職場環境が劣悪であること。また、コロナ禍である状況が採用活動に影響し、説明会や採用イベント、病院見学会などの延期や中止が相次ぎ、採用活動ができない状態になっていることなどがある。
・医師の過労働
原因:単純に医師の数が足りないこと、又、ほか先進国と比べて人口当たりの医師が少ないにもかかわらず、日本は医師の数に対する病床数やひとりあたりの医療機関受診数は多いことなどがある。
・社会保障費圧迫 原因:下の図のように今後とも、年金給付の増大や老人医療費を中心とした医療保険給付の増大、介護給付の増大などが見込まれていることなどがある。



3.研究方法

(1)インターネット検索

医療機関への訪問はできなかったためインターネットを使って検索した。

4.結果・考察

(1)課題解決として医療従事者の負担を減らしていくことが大切だと考える。コロナ禍においても医療従事者の負担が課題となっている中でやはり一番に変えていかないといけないのはそこだと思われる。課題解決のために、学校の環境を整えることや医療従事者の心のケアなども必要になってくるはずだ。

(2)①最低賃金とは…最低賃金法に基づき国が賃金の最低限度を定め、使用者は、その最低賃金以上の賃金を支払わなければならないとする最低限の時給のこと。以下にも記載している通り、以前より全国平均1000円以上を目指すとされており、2022年6月7日に閣議決定された「骨太の方針」においても、改めてその方針が盛り込まれました。
賃金を引き上げる理由…一人あたりの生産性を上昇させるために、最低賃金を上げようとしている。少子高齢化に伴い、労働人口が減ってきているため、一人あたりの生産性向上は必要となる。賃金が上がり、生活が安定することで労働者の生産性が上がるという考え方。

②ストレスの原因

- ・感染者や遺体などに接した医療従事者に対する偏見・厳格なバイオセキュリティ
- ・医療の需要増大 → 厳しい労働スケジュール
- ・厳しい労働スケジュールや最前線で働く人に対するコミュニティ内の偏見のために、社会的支援の利用が減少すること
- ・基本的なセルフケアを実践するための余力がなくなること

- ・感染に関する情報が不十分な患者に長期間暴露すること
- ・最前線で働くことにより特に強まる他者へ感染させることへの恐れ
- ・心のケアとして
→現在受けているストレスについて正しく理解すること。 →基本的なニーズを満たすこと→信頼できる人と、コミュニケーションを取り続けること。→メンタルセルフチェック
- ・チームリーダーがすべきこと
→スタッフの状態を伝えやすい環境づくり→休息を取り、心身を回復できる余裕があるか検討→短期間の定期的な話し合いの場を設ける→ピアサポートを推奨→メンタルヘルスや心理社会的サポートを促し、保証する。→良質なコミュニケーションを確保し、正確かつ、最新の情報がすべてのスタッフに提供されるように努める。→チームリーダー自身がストレス軽減のためのセルフケアを行う手本になる。
- ③AIとは…Artificial Intelligence(人工知能)の略です。コンピューターを使い、プログラミングによって人間の知能を再現している技術です。人工知能の研究は、「人間の知能そのものをもつ機械を目指す研究」、「人間が知的能力を使ってすることを機械にさせようとする研究」に分けることができます。

医療に活用されるAIには高度な技術が必要です。

- ・臨床診断への活用
さまざまな病気のデータを分析することで解析技術の精度が向上し、AIによる精密な診断が可能になることで、疾病やその傾向などの見逃し防止に使われるようになりました。また、医療現場の人手不足解消や、医療負担増による診断ミスを防止する役割も担っています。
- ・ロボットの活用
さまざまな病気のデータを分析することで解析技術の精度が向上し、AIによる精密な診断が可能になることで、疾病やその傾向などの見逃し防止に使われるようになりました。また、医療現場の人手不足解消や、医療負担増による診断ミスを防止する役割も担っています。
- ・画像診断による疾患の診断
- ・自然言語処理技術によるカルテの解析
- ・感染者や遺体などに接した医療従事者に対する偏見
- ・厳格なバイオセキュリティ
- ・医療の需要増大 → 厳しい労働スケジュール
- ・厳しい労働スケジュールや最前線で働く人に対するコミュニティ内の偏見のために、社会的支援の利用が減少すること
- ・基本的なセルフケアを実践するための余力がなくなること
- ・感染に関する情報が不十分な患者に長期間暴露すること
- ・最前線で働くことにより特に強まる、他者へ感染させることへの恐れ

5.結論・今後の展望

結論)現在医療が抱えている問題は簡単に私達が解決できるようなことではないことが分かった。

今後の展望)少しでもより良い状況にするために直接関係なくても解決につながることを考えて実行する

6.引用文献・参考文献

・【参考】ハローワーク「職業別の有効求人倍率」

https://www.hwiroha.com/syokuquyoubetsu_vuukou_kyuujinn_bairitsu.html

【参考】内閣府「社会保障負担等の増加」

https://www8.cao.go.jp/shoushi/shoushika/whitepaper/measure/s/w-2004/html_h/html/g1332010.html

厚生労働省医師の需給に関する検討会報告書のホームページ:

<http://www.mhlw.go.jp/shingi/2006/07/s0728-9.html>

厚生労働省:医師の需給に関する検討会報告書のホームページ:

<http://www.mhlw.go.jp/shingi/2006/07/dl/s0728-9c.pdf>

